

地区とのタウンミーティング 議事概要

日 時	令和7年11月20日（金）午後7時00分～午後8時00分
地 区	駅前住宅地区
場 所	駅前住宅自治会館
参加人数	3人

テーマ1 「旧みらい小学校はどのようになるのか」

主 旨（区長）

- 旧みらい小学校は、駅前住宅地区の防災拠点として位置づけられており、体育館は避難所や防災訓練、地域行事の場として長年活用されてきた。
- 旧みらい小学校の校舎解体と跡地利用の検討が進む中、体育館の継続利用や避難所機能の維持、並びに冷暖房設備の整備について、地域住民から不安の声と強い関心が寄せられている。
- 建て替え期間中の代替施設の確保や、老朽化した建物の安全性の問題も懸念されている。

市 長

- 旧みらい小学校は駅前住宅地区の重要な防災拠点であるとの認識であり、今後も避難所機能がなくなることはない。
- 国からの補助金の関係で、校舎の面積を一定程度縮小する必要があり、北側校舎（約2,000㎡）については令和8年度に解体する方針が決定している。解体後の防災公園整備等の方向性については来年度示していきたい。
- 旧みらい小学校跡地は第一種中高層住居専用地域に位置しており、住宅以外は建てられない。学校の体育館は存置可能だが、学校以外の体育館を新築することはできないという用途地域の制約がある。
- 避難所としての建物を新築することは可能であるが、その場合は平時利用ができないため、従来のように地域行事等に活用することが難しくなる。
- こうした制約から、既存体育館を残し、必要に応じて修繕やエアコン設置を行う方向が現実的であると考えている。
- 体育館へのエアコン設置については、第二中学校で使用している中圧ガスの延伸により設置可能であり、技術的には対応できる。
- 旧みらい小学校の跡地活用にあたっては、地域が継続して利用できるよう慎重に検討し、建て替えや新規整備を行う場合も、避難所機能の確保を前提に進める。
- 郡津小学校は児童数が多く、将来的に建替えが必要となった際には、旧みらい小学校跡地の一部を移転候補地として検討する可能性があることから、跡地については長期的な公共的利用を想定している。

意 見

- 避難時の限定利用となるのは避けてほしい。普段から使える体育館が必要。
- 現在の体育館を可能な限り残して利用したい。

- 旧みらい小学校は地域行事やスポーツ利用も多く、急に使えなくなると困る。
- 解体中の代替施設の確保が必要ではないか。
- プール跡地など未定部分も含め、早めに方向性を示してほしい。

テーマ2「道路状況について」

主旨（区長）

- 当地区では、昭和40年代に造成された住宅地が多く道路の劣化が進んでおり、高齢者の転倒リスクの増大や夜間の視認性低下による歩行の安全性の懸念、さらには車両通行に支障が生じている箇所がある。
- 凹凸や段差、排水不良による浸水被害が発生しており、住民から改善要望が多い。
- 市に対して、凹凸部分の優先的な補修や現地確認を求める声が多く寄せられている。

市長

- 駅前住宅地区を含む交野市内のおおよその道路は、宅地開発時に整備され市へ寄付されたものであり、市が整備した道路のほとんどは幹線道路である。上下水道や公園も同理由で市が所有しているものがほとんどである。
- 駅前住宅地区内には幹線道路が存在せず、路面性状調査による修繕計画の対象外となる場合が多い。
- 生活道路については、下水道工事や水道管更新のタイミングに合わせて補修することが基本となっている。下水道整備には国からの補助金が出るため、市の持ち出しは少ない。また、浄化槽だと定期的な点検も必要であり、市への収入（利用料）もないため、今後も下水道の整備を続けていく予定である。
- 地区の一部では近年下水道整備が行われ、併せて道路舗装も更新したため、今後も水道管・下水管の更新時に周辺道路の舗装補修を進めていく。
- 道路の勾配や造成当時の粘土層など地形的要因により雨水が滞留しやすい箇所がある。
- 排水改善にあたっては、用地取得が必要となる場合や私有地の地盤状況など技術的制約があるため、地域と相談しながら長期的に検討していく。

意見

- 道路の凹凸が多く危険であり、歩道との段差が大きい箇所もある。
- 当地区で浄化槽から下水へ切り替えた際の経験から、整備については住民への丁寧な説明が必要と感じている。
- アカカベ・セブンイレブン辺りから、大雨により水が流れ込み、多数の排水不良が起きた過去がある。今後も同じようなことが起こる可能性があるならば改善を求めたい。即時の全対応は求めないが、10年単位でもよいので改善計画を示してほしい。

→[市長]駅前住宅を流れる川は、万代付近で免除川と合流し、最終的に天野川へと流れ込んでいる。下流部の川底を掘削して浸水対策を進めたいが、川周辺には多くの住宅が密集しており、工事の実施が難しい状況である。代替策として、私部4丁目のさくら丘自治会周辺にある一部農地を、市が浸水対策用地として取得できれば、「一時的に雨水を貯留する。免除川へ放流する」といった活用も可能ではないかと考えている。

テーマ3「交野市周辺の活性化について」

主旨（区長）

- 高齢者から、日常の買い物が不便であるとの声が寄せられている。
- イズミヤ跡地にドン・キホーテの進出が予定されているが、徒歩圏で利用できる食料品スーパーを求める声が多い。

市長

- イズミヤ跡地については、現在、民間事業者が建物の整備を進めており、ドン・キホーテの入店がすでに決定している。地下には飲食店、地上階は物販が中心となる計画で、大規模店舗立地法に基づく手続きが必要となる規模であることから、市とも協議を進めている。
- 駅周辺では、旧交野病院跡地およびその隣接地において民間事業者によるまちづくり計画が進行しており、道路拡幅や土地の寄付・譲渡に関する協議も進めている。かつてパン屋（麦の大地）等があった区画についても、民間事業者による4階建てビルの建設計画が進んでおり、金融機関が入居する予定である。
- 市役所庁舎についても耐震工事に着手予定であり、こうした取り組みにより駅周辺の環境は順次改善されていく見込みである。
- 市としても、地域の買い物利便性を確保することは重要であると認識しており、商業施設の誘致や買い物支援サービスなど、多様な手法による買い物支援を検討していく。

意見

- 高齢者にとって、徒歩圏内にスーパーマーケットがあることは不可欠である。
- ドン・キホーテは食料品に限られているため、別途スーパーを誘致してほしい。
- マクドナルドやガストなどは賑わっており、地域としてのポテンシャルは高いと感じている。
- 空き家が増加しており、地域活性化に向けた戦略的な施策を進めてほしい。